

2/13～14「イタイイタイ病映像展」、2/16「県民フォーラム」を開催

イタイイタイ病の恐ろしさや克服の歴史を広めるための館外活動の一環として、2月13日（水）と14日（木）の2日間、富山市民プラザ2階アトリウムにおいて、「イタイイタイ病映像展」を開催します。期間中は、イタイイタイ病の患者家族や数々の問題解決に尽力された関係者21名の証言映像を順次放映します。裁判中の貴重な写真パネルもあり、当時を振り返ることができます。入場は無料ですので、ぜひ、「街中ミニ資料館」として、ご来場ください。

そして、2月16日（土）の10時から、資料館で「イタイイタイ病を考える県民フォーラム～四大公害病に学び、教訓を未来へ～」を開催します。若者らによるイタイイタイ病の学習成果発表、テレビなどでおなじみの北野大氏による記念講演に続き、四大公害病の資料館長等が一堂に会する全国初のシンポジウムを行います。2月13日（水）が申込締切となっています。お早めに申し込みください。

*詳しくは、ホームページ (<http://itaitai-dis.jp>) をご覧ください。



子どもたちの環境と健康についての「理解」と「興味」が深まっています

資料館では、多くの子どもたちに、イタイイタイ病についてしっかり知ってもらうため、学校に無料送迎バスを提供する「課外学習サポート事業」を実施しています。この事業で来館された子どもたちすべてを対象に、学習成果などを詳しく調査していますが、このたび、昨年6月から12月までに利用された分の中間とりまとめ（小中高20校・1,066名分）を行いました。

その結果、学習効果として、①イタイイタイ病の発生時期、②発生地域、③患者の症状や特徴、④原因（物質）の4項目についての理解度は、来館前に知らないと答えた子どもたちでも、来館後には、その約9割が「理解できた」と回答しています。

展示室で紹介している分野ごとの理解度については、ジオラマやさわれる模型で説明している「川水を利用していた昔の生活（99%）」や「患者の骨の状態（99%）」が高く、「患者の腎臓の状態（68%）」や「住民と原因企業の取決めの内容（73%）」が低い傾向にありました。

また、「特に理解が深まった」、「特に印象に残った」、「今後もっと学習したい」のいずれの項目でも、「公害の恐ろしさ、環境と健康の大切さ」が、高い数値を示しています。

資料館では、課外学習で一定の成果が出ていると感じていますが、これらの結果を踏まえ、解説に工夫を加えるなど、さらにわかりやすい説明に心がけていきます。

課外学習で資料館を利用した子どもたちの学習状況（概要）

- 1 集計対象** 課外学習サポート事業を活用して来館した小中高生 1,066名（20校）
 * 小学生/968名（16校）、中学生/82名（3校）、高校生/16名（1校）

2 学習効果の状況

	発生した時期	発生した地域	患者の症状や特徴	原因（物質）
来館前				
来館後				

3 学習後の分野別の理解度、効果

（単位/人）

展示室のテーマごとの分野	理解できましたか？		特に理解が深まった	特に印象に残った	今後もっと学習したい
	できた	できなかった			
テーマ1 ① 川水を利用していた昔の生活	1,054	10	451	229	159
テーマ2 ② 発生した時期 ③ 発生した地域 ④ 患者の症状や特徴 ⑤ 患者・家族の苦しみ、地域の人々の苦勞	952	112	190	91	96
	1,022	43	230	110	74
	1,041	21	487	332	159
	1,041	19	467	409	158
テーマ3 ⑥ 原因（物質） ⑦ 裁判を起こした理由とその結果 ⑧ 住民と原因企業の取決めの内容	1,040	26	416	226	193
	954	111	158	191	140
	770	291	87	70	180
テーマ4 ⑨ 患者の認定方法、患者数 ⑩ 患者の腎臓の状態 ⑪ 患者の骨の状態	845	219	133	143	178
	726	337	145	187	255
	1,049	15	505	505	222
テーマ5 ⑫ 鉱山への立入調査の内容と歴史 ⑬ 農地の土壌復元の内容と歴史	813	249	91	119	269
	903	161	139	152	290
総括 ⑭ 公害の恐ろしさ、環境と健康の大切さ	1,052	13	467	484	347